

# 虹色 第4号

## 3者懇談会では、進路の話を中心にお話させていただきます！

いよいよ1学期も残りわずかとなりました。今週から3者面談が始まりました。6月に行った進路希望調査を元に、進路の話題が中心となります。懇談後には、ぜひ、保護者の方と進路についてたくさんお話し、2学期につなげてほしいと思います。

進路説明会でも話したとおり、1学期は「情報収集」の時期です。パンフレットやホームページを活用して情報収集することも大切ですが、やはり体験入学に参加することが一番です。「百聞は一見に如かず」です。まだ、一度も体験入学に参加していない人は、夏休みに1校はぜひ参加できるといいと思います。

## 評定 実技教科を甘く見ないで！ 疑問 懇談会からのQ&A

今週から始まった3者懇談会では、1学期の評定が担任より口頭で伝えられます。入試に繋がる大切な1学期の成績ですし、公立受検する人にとっては、3学期の成績にも大きく反映されます。中には、1学期の定期テストがうまくいかず、評定を下げ、落ち込んでいる人もいます。ただ、いつまでも落ち込んでいてはいけません。何がいけなかったのかを振り返り、2学期に挽回すればいいですよ。

例年、「僕は5教科だけで勝負するから大丈夫」「入試には5教科しかないから、実技教科はあまり勉強しない」という人がいますが、それは、間違っています。入試で用いる評定というのは45点満点（5×9教科）の合計の数字です。どの教科が何点ということではなく、合計何点かが大事ということです。5科で5をとっても、実技教科で5をとっても同じ5として計算されます。5教科合計25、実技教科合計20です。学年順位はいいのに、評定の合計数が少ない人は、ぜひ実技教科の取り組み方を検討してみてくださいはいかがでしょうか。これまで以上に「丁寧に」かつ「真剣に」取り組むことが大切です。実技教科は、その名の通り、技能が大きく成績に反映されます。しかし、絵の才能がないからと言って、美術の勉強を諦めるのか。答えは「No」です。技術力の足りない部分を補うために何ができるか考えてみませんか。やれることは意外とたくさんあるんですよ。

初日8日(月)の3者懇談会に中で、生徒や保護者の方からいただいた疑問や質問について、お答えできる範囲で回答してみます。

Q1：北中の中で各学校の推薦枠（推薦できる人数）というものは存在するのですか。

A1：存在しません。

Q2：内申がどれくらいあったら、推薦してもらえますか。

A2：毎年、合格に必要な内申点や当日点変動しているため、数字についてお話はできません。ただ、過去の卒業生のデータを参考に、少し幅のある領域での数字を推測してそれを根拠に進路相談を行っていきます。

Q3：北中から多く受験される学校はどこですか。

A3：近年の北中の受験校の分析すると、公立では、長久手高校、私立では栄徳高校の受験者が多いです。他には、名東、旭野、菊里、瀬戸西、愛知、東邦、名電などです。上記の学校は、市内及び長久手近郊にあり、通学しやすいことが要因だと思われます。

ご質問ありがとうございました。引き続き、3者懇談よろしくお願ひします。